学校番号	1205

令和８年度　教養科

教科	教養	科目	(学) 多文化研究	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	プリント教材						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

日本の中の多文化について考え、多文化共生社会に向けて自分たちができることを考える。
日本の文化や外国の文化について学び、多文化共生について、調べたこと、考えたことをレポートにし、発表する。

2　学習の到達目標

a：日本の中の多文化について知り、多文化共生について考え、自分とは異なった背景を持つ他者について理解している。
b：自分と他者の違いについて知り、他者への受容力、共感力、対応力をみにつけ、お互いに影響し合う多文化共生社会に向けて自分ができることを主体的に考えことができる。
c：自分や他者の文化的背景について、関心や興味を持ち、多文化共生社会の実現に向けて、主体的に考えることができる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	日本の中の多文化について知る。在日外国人や多文化について知り、自分とは異なった背景を持つ他者について理解できるようになる。	多文化共生社会の実現に向けて、考え、自分の意見を述べることができる。 自分自身の文化的背景への気づきを高め、文化がもたらす影響を理解し、自分や他者について理解を深めることができるようになる。	自分や他者の文化的背景について関心や興味を持ち、多文化共生社会の実現に向けて主体的に考え、行動することができるようになる。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	日本の中の多文化	自分とは異なる文化背景を持つ他者について理解する。 多文化ワークショップなどを通じて、自分が少数派になった時の立場や状況を理解する。	a：日本の中にある様々な文化について理解することができる。 b：様々な他者視点から「日本」を見ることができる。 ステレオタイプ、マイクロアグレッションなどについて理解することができる。 c：個人ワーク・ペアワーク・グループディスカッションに積極的に取組むことができる	小テスト	レポート 発表	レポート 発表
	母文化	自分の国について理解する。（言語・教育制度・民族など）	a：自分の国について理解し、発表することができる。 b：他者と異なる点などに気づくことができ、文章にまとめることができる。 c：個人ワーク・ペアワーク・グループディスカッションに積極的に取組むことができる。	小テスト	レポート 発表	レポート 発表
2	自分を紹介する	自分のことについて、紹介する。	a：自分の国や文化について理解し、発表することができる。 布施北高校の多文化について理解し、発表することができる。 b：伝える相手を意識して、プレゼンテーションができる。 文章構成などを考え、自分の意見、考えをまとめて書くことができる。 c：個人ワーク・ペアワーク・グループディスカッションに積極的に取組むことができる。	小テスト	レポート 発表	レポート 発表
	交流	外国で日本語を学ぶ学生と交流する。	a：外国で日本語を学ぶ学生と相手を意識した日本語でコミュニケーションをとることができる。 b：外国の多文化社会について理解しようとし、積極的に意見交換ができている。 c：個人ワーク・ペアワーク・グループディスカッションに積極的に取組むことができる。	小テスト	レポート 発表	レポート 発表
3	まとめ	多文化共生社会の実現に向けて、自分たちができることを考える。	a：自分とは異なる文化的背景を持つ他者について理解している。 b：多文化共生社会の実現に向けて、積極的に自分の意見を述べたり、行動することができる。 c：個人ワーク・ペアワーク・グループディスカッションに積極的に取組むことができる。	小テスト	レポート 発表	レポート 発表

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度